

容器包装廃棄物の分別収集計画

(第8期)

平成28年5月作成

津山市

目 次

1 . 計画策定の意義	2
2 . 基本的方向	2
3 . 計画の期間	2
4 . 対象品目	2
5 . 各年度における容器包装廃棄物の排出量の見込み	3
6 . 容器包装廃棄物の排出の抑制を促進するための方策 に関する事項	3
7 . 分別収集をするものとした容器包装廃棄物の種類及び 当該容器包装廃棄物の収集に係る分別の区分	4
8 . 各年度において得られる分別基準適合物の特定分別基準適合物 ごとの量及び容器包装リサイクル法第 2 条第 6 項に規定する主 務省令で定める物の量の見込み	5
9 . 各年度において得られる分別基準適合物の特定分別基準適合物 ごとの量及び容器包装リサイクル法第 2 条第 6 項に規定する主 務省令で定める物の量の見込みの算定方法	5
1 0 . 分別収集を実施する者に関する基本的な事項	6
1 1 . 分別収集の用に供する施設の整備に関する事項	7
1 2 . その他容器包装廃棄物の分別収集の実施に関し重要な事項	7

1. 計画策定の意義

津山市第5次総合計画(平成28年度～37年度)において津山市のまちづくりの基本構想の一つとして「豊かな自然環境の保全と快適に暮らせるまちづくり」を目標に掲げ取り組んでいる。本計画中で「豊かな環境を次世代に残すために」という目標を立てて事業を進めている。

この目標に向かっていくためには、今日の大量生産、大量消費、大量廃棄といったライフスタイルの見直しと環境に配慮した事業活動を促進し、ごみの減量化と資源の有効活用に努め、将来に向けて循環型社会を構築していく必要がある。

本市においては、近隣5市町で「津山圏域資源循環施設組合」を設立し、より広域による一般廃棄物の処理施設として「津山圏域クリーンセンター」の稼働が平成28年3月10日から開始され、合わせて市内のごみの収集・分別方法が統一されたことから、さらにごみの減量化、資源化対策を講じていかななくてはならない。

本計画はこのような状況の中、容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(以下「容器包装リサイクル法」という。)第8条に基づいて容器包装廃棄物を分別収集し、最終処分量の削減を図る目的で、市民・事業者・行政それぞれの役割や、具体的な推進方策を明らかにし、これを公表することにより、すべての関係者が一体となって取り組むべき方針を示すものである。

本計画の推進により、容器包装廃棄物の3Rを推進することによって、廃棄物の減量や資源の有効利用が図られ、循環型社会の形成が図られるものである。

2. 計画の基本的方向

本計画を実施するに当たり、次のとおり基本的方向を示す。

地域特性を活かした、資源循環型社会づくりを進める。

ごみの発生及び排出の抑制を第一義とし、排出されたごみは可能な限り再利用、資源化し、最終処分量を限りなくゼロに近づけるよう、住民、事業者、市が一体となり、ごみの少ない社会づくりを進める。

3. 計画の期間

本計画の計画期間は平成29年4月を始期とする5年間とし、平成31年度に見直す。

4. 計画の対象品目

本計画は容器包装廃棄物のうち、スチール製の容器、アルミ製の容器、ガラス製の容器(無色、茶色、その他)、段ボール製の容器、ペットボトル、プラスチック製の容器包装を対象とする。

5. 各年度における容器包装廃棄物の排出量の見込み

(法第8条第2項第1号)

	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
容器包装廃棄物	6,790 t	6,739 t	6,687 t	6,636 t	6,584 t

6. 容器包装廃棄物の排出の抑制のための方策に関する事項

(法第8条第2項第2号)

容器包装廃棄物の排出抑制のため住民、事業者、行政等がそれぞれの立場から役割を分担し相互に協力、連携を図りながら次の各種事業を進めていく。

(1) 容器包装廃棄物の排出抑制とリサイクルの啓発

容器包装リサイクル法の趣旨の周知と排出抑制及び再資源化、リサイクル促進のための啓発活動を進めていく。

広報紙等への記事掲載及び各種印刷物の作成・配布

毎月発行している「広報つやま」に、ごみの減量化、資源化の呼びかけ、講演会、イベント等に関する事項の情報提供を行っていく。

年3回発行する「ごみゼロ新聞」を通じて、広報紙と同様にごみの減量化・資源の有効活用等の広報啓発を行っていく。

また、随時チラシを広報紙・新聞等に折り込みするとともに、ホームページの充実、新聞、テレビ、ラジオの活用も図っていく。

市内処理施設見学会の開催

ごみ問題等啓発活動の一環として、津山圏域クリーンセンター施設見学会を勧め、今後も資源の有効活用、ごみの減量化やリサイクルの推進に関する各種環境学習を活用しごみ問題についての知識を深めてもらう。

- ・市内の小学校社会科見学
- ・各町内会、各種グループでの施設見学会
- ・消費者団体による市内外への施設見学会

学習会の開催

市からの出前「ごみ講座」による、ごみの勉強会を行っていく。

- ・生ごみリサイクル教室
- ・その他要請のある所には、随時講師の派遣を行っていく。

(2) 環境教育

小学校副読本の作成

環境教育の一環として、小学校副読本を作成し、小学生にごみ問題を認識させ大人への波及効果を期待する。

教育用ビデオ/DVD

図書館の視聴覚教材を活用し、ごみ減量やリサイクルに対する理解を深めてもらう。

(3) リターナブルびん回収の啓発

リターナブルびんの回収ルートを守るため、住民による販売店への返却を支援していくと同時に、これに関する啓発を行う。

7. 分別収集をするものとした容器包装廃棄物の種類及び当該容器包装廃棄物の収集に係る分別の区分

(法第8条第2項第3号)

本市の分別収集をする容器包装廃棄物の種類を下表左欄のように定める。

また、住民の協力度合い、市の施設、収集体制、収集機材等を勘案して収集に係る分別の区分を下表右欄のように定める。

分別収集する容器包装の種類	収集に係る分別の区分
スチール製の容器	缶
アルミ製の容器	
ガラス製の容器(無色)	びん(無色)
ガラス製の容器(茶色)	びん(茶色)
ガラス製の容器(その他)	びん(その他)
段ボール製の容器	段ボール
ペットボトル	ペットボトル
プラスチック製の容器包装であって上記以外のもの	プラスチック製容器包装

8. 各年度において得られる分別基準適合物の特定分別基準適合物ごとの量及び容器包装リサイクル法第2条第6項に規定する主務省令で定める物の量の見込み

(法第8条第2項第4号)

単位：t

	29年度		30年度		31年度		32年度		33年度	
スチール製の容器	137		136		135		134		133	
アルミ製の容器	133		132		131		130		129	
ガラス製の容器(無色)	(合計) 429		(合計) 426		(合計) 422		(合計) 419		(合計) 416	
	(引渡) 0	(独自処理) 429	(引渡) 0	(独自処理) 426	(引渡) 0	(独自処理) 422	(引渡) 0	(独自処理) 419	(引渡) 0	(独自処理) 416
ガラス製の容器(茶色)	(合計) 339		(合計) 336		(合計) 333		(合計) 331		(合計) 328	
	(引渡) 0	(独自処理) 339	(引渡) 0	(独自処理) 336	(引渡) 0	(独自処理) 333	(引渡) 0	(独自処理) 331	(引渡) 0	(独自処理) 328
ガラス製の容器(その他)	(合計) 138		(合計) 137		(合計) 136		(合計) 135		(合計) 134	
	(引渡) 138	(独自処理) 0	(引渡) 137	(独自処理) 0	(引渡) 136	(独自処理) 0	(引渡) 135	(独自処理) 0	(引渡) 134	(独自処理) 0
段ボール製の容器	17		16		16		16		16	
ペットボトル	(合計) 216		(合計) 214		(合計) 213		(合計) 211		(合計) 210	
	(引渡) 216	(独自処理) 0	(引渡) 214	(独自処理) 0	(引渡) 213	(独自処理) 0	(引渡) 211	(独自処理) 0	(引渡) 210	(独自処理) 0
プラスチック製の容器包装であって上記以外のもの	(合計) 1,262		(合計) 1,252		(合計) 1,243		(合計) 1,233		(合計) 1,224	
	(引渡) 1,121	(独自処理) 0	(引渡) 1,112	(独自処理) 0	(引渡) 1,103	(独自処理) 0	(引渡) 1,095	(独自処理) 0	(引渡) 1,087	(独自処理) 0

9. 各年度において得られる分別基準適合物の特定基準適合物ごとの量及び容器包装リサイクル法第2条第6項に規定する主務省令で定める物の量の見込みの算定方法

特定分別基準適合物等の量及び容器包装リサイクル法第2条第6項に規定する主務省令で定める物の量の見込み

= 直近年度の分別基準適合物等の収集実績 × 人口変動率

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
101,154人 (対前年度比) 1.93%	100,387人 (対前年度比) 0.76%	99,619人 (対前年度比) 0.76%	98,852人 (対前年度比) 0.77%	98,082人 (対前年度比) 0.78%

人口(予測)と人口変動率は、「津山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の数値より案分による推計。

10. 分別収集を実施する者に関する基本的な事項（法第8条第2項第5号）

分別収集は缶、ガラスびんについては現行の4種分別収集体制を活用して行う。ペットボトルについては、平成14年度から全市内での分別収集を実施しているとともに、スーパーでの店頭回収を継続する。段ボールについては現在、津山圏域クリーンセンターで直接持ち込みを受け入れているが、加茂地域においては持ち込みという手法でなく、業者による地点回収を実施する。

なお、缶・びん・段ボールについては、他の古紙類や古着、金属類も含めて、市内3箇所「青空リサイクルプラザ」(スーパーの駐車場での出前資源回収)という手法でも収集を行っており、今後も継続する。

分別収集の実施主体

容器包装廃棄物の種類		収集に係る分別の区分	収集・運搬段階	選別・保管等段階
缶	スチール製の容器	缶	地点回収 スーパー等での拠点回収 青空リサイクルプラザによる回収	市 (青空リサイクルプラザの缶は民間業者)
	アルミ製の容器			
びん	ガラス製の容器(無色)	びん(無色)		
	ガラス製の容器(茶色)	びん(茶色)		
	ガラス製の容器(その他)	びん(その他)		
紙	段ボール製の容器	段ボール		
プラスチック	ペットボトル	ペットボトル	地点回収 スーパー店頭回収	市
	プラスチック製の容器包装であって上記以外のもの	プラスチック製容器包装	地点回収	市

11. 分別収集の用に供する施設の整備に関する事項（法第8条第2項第6号）

スチール製の容器、アルミ製の容器、ガラス製の容器（無色、茶色、その他）、ペットボトル、プラスチック製の容器包装については津山圏域クリーンセンターで選別、圧縮、保管を行う。

分別収集の用に供する施設計画

分別収集する容器包装廃棄物の種類	収集に係る分別の区分	収集容器	収集車	中間処理
スチール製の容器	缶 びん（無色） びん（茶色） びん（その他）	・プラスチック製コンテナ ・ポリ袋	・パッカー車（2t、4t） ・リサイクルパッカー車（2t） ・トラック（2t）	津山圏域クリーンセンター（選別・圧縮・保管）
アルミ製の容器				津山圏域クリーンセンター（選別・保管）
ガラス製の容器（無色）				
ガラス製の容器（茶色）				
ガラス製の容器（その他）				
段ボール製の容器	段ボール	・ひも	・ダンプ車（2t、4t）	民間業者
ペットボトル	ペットボトル	・ネット ・ポリ袋	・トラック（2t） ・パッカー車（4t）	津山圏域クリーンセンター（選別・圧縮・梱包・保管）
プラスチック製の容器包装であって上記以外のもの	プラスチック製容器包装	・指定袋	・パッカー車（2t、4t）	津山圏域クリーンセンター（選別・圧縮・梱包・保管）

12. その他容器包装廃棄物の分別収集の実施に関し重要な事項

本市では、ごみの減量化の促進と分別収集を円滑かつ効率的に進めるため以下の制度を設けており、今後これら諸制度の充実を図っていく。

（1）市民や事業者の意見、要望を反映させリサイクルを推進する体制

津山市廃棄物減量等推進審議会

住民、事業者、学識経験者等からなる“津山市廃棄物減量等推進審議会”において、容器包装廃棄物を含めてごみの適正処理、減量化あるいは、資源化等について審議を進めており、これを継続していく。

- ・審議会の組織（委員19人，任期2年）

リサイクル推進委員

地域での分別収集を円滑により効果的に行うため、リサイクル推進委員制度を設けており、リサイクル推進委員への働きかけを引き続き行う。

- ・リサイクル推進委員：各町内会から推薦された原則 1 人。
- ・発足：平成 6 年 3 月 1 日
- ・任期：2 年
- ・主な任務

町内におけるごみの減量化、資源化及び適正処理等の普及及び啓発活動

住民に対するごみの収集、処分に関する意見又は助言及び市民からの要望等の伝達

町内における再生品の利用促進の普及活動

(2) 地域における資源回収の推進

- ・自主的に資源回収活動を実施する団体及び資源回収業者に対し、報奨金制度により資源回収の支援を行っているが、再生資源業者の名簿一覧、資源回収の取り組み方法等のマニュアルなどを作成し、事業の拡大推進を図っていく。
- ・市が関与しないで回収されるものに、紙パック・紙製容器包装・白色トレイがある。紙パック・白色トレイはスーパーによる自主的に店頭回収され、紙製容器包装はボール紙として集団回収の対象になっているので、それぞれを最大限活用するよう広報を行う。